

施策評価の見直し

1. 現状・課題

【定量評価】

① 指標の評価 [a, b, c, d]

各施策項目における複数の指標について、目標値に対する進捗率をそれぞれ評価

② 定量評価の判定 [A, B, C]

上記①の結果において、「a・b」や「c」「d」の有無により判定

< 課題等 >

● 複数指標の判定がある状況において、1つでも「d」があれば**定量**指標の判定が「C」となるなど極端な判定が発生

[例]

「a・d」の場合も「d・d」の場合も**定量**評価は同じ「C」判定

● 調書において、各指標のPDCAサイクルの[D]、[C]、[A]が欠落

【定性評価】

③ 取組の評価

各施策項目で掲げる取組を小柱毎にPDCAサイクルで整理

〔 [P]取組(昨年度の[A]を踏まえる)
[D]取組状況 [C]見えた課題 [A]今後の対応 〕

④ 定性評価の判定 [進展あり、なし]

各取組の評価結果(上記③)を、3つの観点を満たすかで総体的に判定

〔 観点 〕
・ 前年度の点検・評価の結果、明らかとなった課題等を踏まえ、計画した取組を着実に進めているか
・ 課題の解消が進んでいるか
・ 施策の目標達成に向けた成果が見られるか

< 課題等 >

● 取組の小柱毎に対するPDCAサイクルが整理されているが、評価ができない

● 3つの観点(上記④)は重複している

● 上記④の判定「進展あり」が、**総合**評価の表現と同じで、混同しやすい

【総合評価】

⑤ 総合評価

定量評価と**定性**評価の判定結果から機械的に判定

定量評価	定性評価	総合評価
A	進展あり	計画どおり
	進展なし	概ね計画どおり
B	進展あり	
	進展なし	進展あり
C	進展あり	進め方を検討
	進展なし	

< 課題等 >

● 「計画どおり」と「進展あり」で意味合いが混同しやすい

● 調書において、施策としての次年度の取組が整理されていない

2. 見直しの方向性

評価方法

- ・ 他の評価方法も参考に、より実態に即した評価判定の検討
- ・ 分かり易い表現に判定結果を見直し

施策評価調書

総合評価を踏まえた次年度の取組を整理するなど、評価方法の見直しに合わせた調書を検討

3. 今後の予定など

R 5年12月頃までを目途に整理
※取組の[P][D]を整理する時期